

特42

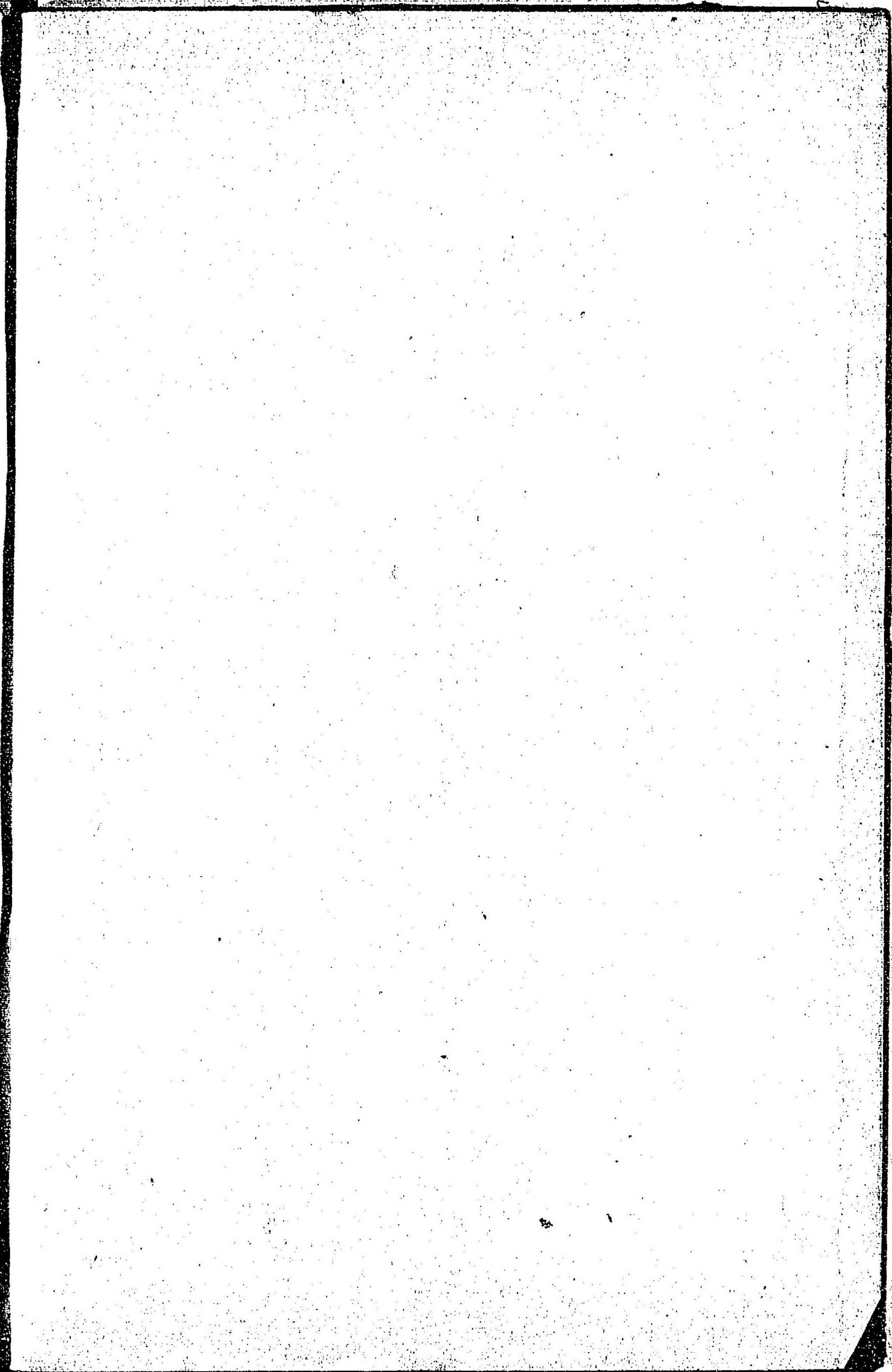
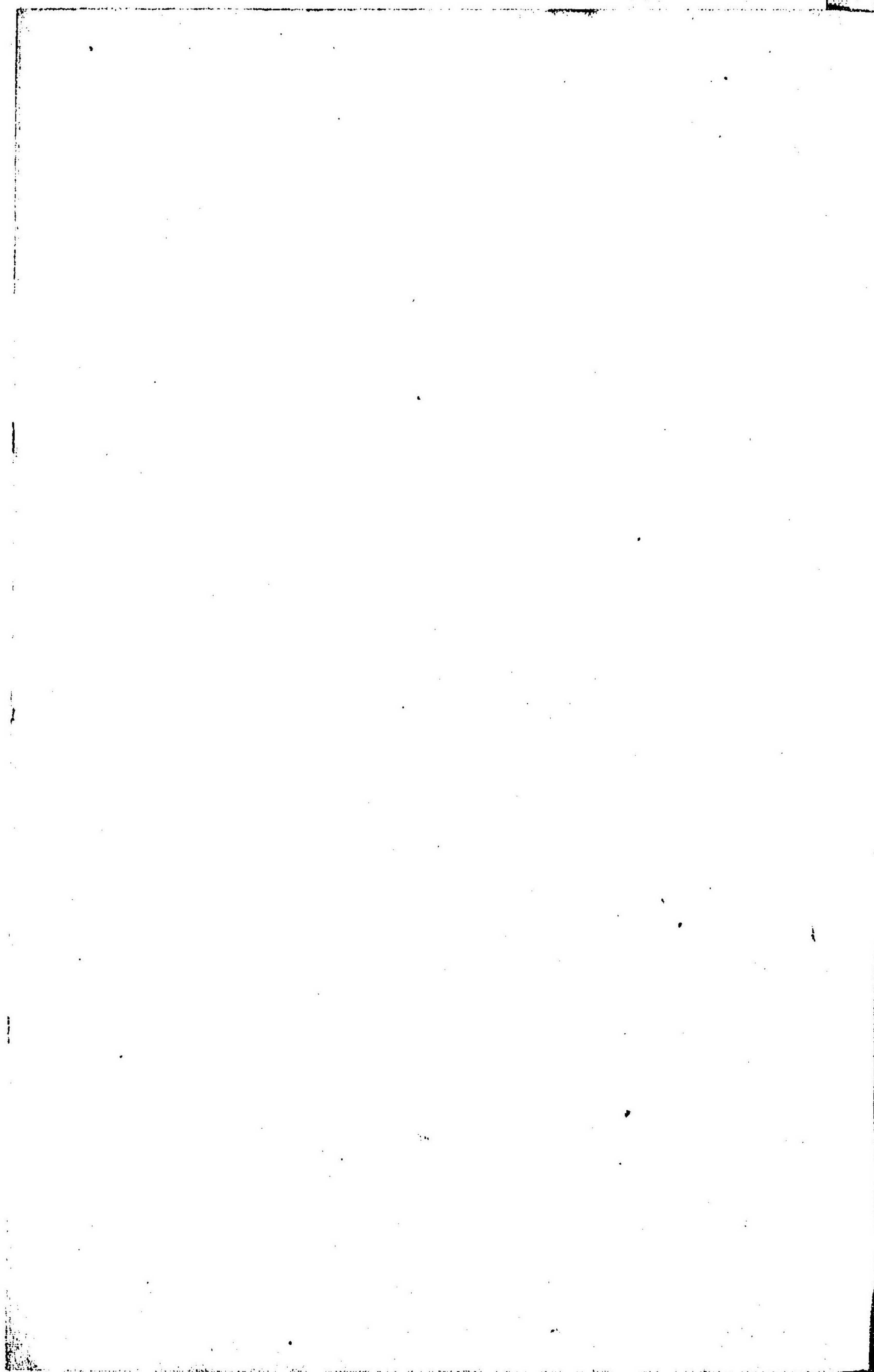
9

452

高麗輕衫
白布
通水
通水
通水
通水

255

88



白髭



引奉書
君と林とある直なるは、
治る國なる

是は當今に仕るは名也

おと江あ白髭、明神の靈神にて清

座の君は、神の靈神にて清

あ、あまたより、急な請りせとの宣

書を、あまたより、急な請りせとの宣
書を、あまたより、急な請りせとの宣

40.9.19
内交

下向仕仰^カ九重^上下^ニ望^スミ^テ望^ミニ^ル也^ニ
く^ニ雲^ノ受^ケい^クく^ニ花園^ノ乃^チ志^ス望^ス山^ノ越^ス
ら^ニと^シて^カま^カの^ハ入^ル江^ノれ^タら^シし^ム鳴^ルれ^ル
海^ノ内^ニは^シつ^タり^シさ^ラな^らず^ニ浮^ル白^ク整^ト住^ス
さ^ニま^クな^らん^タり^ク急^ニな^らん^ニ整^メの^ハ
ま^ニま^ニる^ハ心^ニ静^カ神^ヲ極^メる^トな^らん^ニ
ツテ^男釣^りの^ハい^とな^りし^コの^ハま^ニま^ニり^シも^シあ^らん^ニあ^らん^ニ

明^ニ言^ハん^{コト}樟^ノき^ハな^らん^ニ海^ノ土^ノ少^クぬ^ル
わ^らし^クな^らん^ニ高^ク浮^ル世^ノれ^ハ風^ノ帆^ノ帆^ノを^シ
あ^らん^ニ萬^リ里^ノ程^ハ天^ノ海^ノと^シ
水^ノ光^ノあ^らん^ニあり^テ舟^ノ師^ハ船^ノ是^ニ明^ニ船^ノの^ハ
雨^ノ面^ノ白^クな^らん^ニを^シ今^ノを^シま^ニの^ハを^シ後^ノに^シ
衣^ノを^シう^ケし^テ峯^ノ白^クあ^らん^ニさ^らん^ニ花^ノり^ノ
あ^らん^ニも^シ白^ク日^ノ影^ノを^シわ^らん^ニい^やる^ハ也^ニ

勅使よりてはるるも 平 中との事

多^{シテ}物や君よりてはるる程まで

給ひ坐神の威光の程らう有難

々^ス賜^ヒ給^ヒの程の程と直成に代

ち^ス給^ヒの程と直成に代

々^ナ給^ヒの程と直成に代

々^ナ給^ヒの程と直成に代

殊^ニ又^ニ又^ニの^ニ程^ニと直成に代

白^クの^ニ程^ニと直成に代

有^ルの^ニ程^ニと直成に代

有^ルの^ニ程^ニと直成に代

有^ルの^ニ程^ニと直成に代

有^ルの^ニ程^ニと直成に代

有^ルの^ニ程^ニと直成に代

有^ルの^ニ程^ニと直成に代

支那國のちり家より傳ふるもの多し
別して其況區ありして其地
すまの二義より天地既別きて
のち九に滅劫人壽二萬歳の時
迦葉世よりありて世に終りて
大聖教を其授たるとして都卒
信し終りて吾ハ相成るに後送

教流布の地りもの有りて
其南瞻海ありてありて
は境に多し海を大海上より
一切の生悉有佛性如來を信する
易の信は声一葉の聲に響く
ひまの例とありて今の大権現に
波止去波あり其居人壽百歳の時

悲^レ遠^レと^レま^レれ^レ陰^レ自^レて^レ十^レ心^レ七^レ苦^レの^レ心
頭^レ也^レ面^レ西^レ右^レ照^レ卧^レ跋^レ提^レの^レ波^レと^レ消^レ経^レふ
され^レも^レ仏^レの^レ老^レ後^レ不^レ滅^レ法^レ界^レの^レ妙^レ粹^レ
あ^レま^レる^レ昔^レ昔^レの^レ紫^レ丸^レ劍^レと^レな^レり^レ中^レは
國^レを^レ踏^レけ^レる^レ時^レの^レわ^レら^レん^レ金^レを^レま^レの
ま^レの^レに^レ代^レあ^レれ^レ仏^レ法^レの^レ名^レを^レ人^レ志^レ
ら^レま^レる^レ比^レ敷^レの^レ林^レ麓^レに^レは^レか^レき^レ如^レし

浦^レの^レ邊^レを^レ釣^レま^レし^レる^レ老^レ翁^レを^レ頼^レま^レる
ま^レの^レま^レの^レく^レる^レを^レ一^レ地^レの^レま^レる^レに
み^レ山^レを^レ釣^レま^レし^レる^レよ^レ仏^レ法^レ結^レ戒^レの^レ地^レを
あ^レの^レく^レと^レ宣^レく^レる^レ翁^レを^レく^レる^レま^レる^レ
人^レ壽^レ六^レ子^レ戒^レの^レ始^レより^レ山^レに^レま^レる^レ
て^レみ^レ湖^レの^レ七^レ度^レを^レ昔^レ原^レに^レま^レる^レ
ま^レの^レく^レと^レ宣^レく^レる^レ翁^レを^レく^レる^レま^レる^レ

かたなるあきらむる釣きも我らにあらざらん
かくてさへもむる射き力あくる今を
寐えちよぬらんぬらん時を奪
より淨瑠璃世界のありし薬師
忽ちとせ給ひてくよたつたわ釋き
平地に仏法をひろげりてはるばる
人壽二萬歳の長きうに世にのまらぬ

若翁も我らも何れも山を措か
しんまを開闢せんはれは山を
主とすべし後五百歳の仏法
をせんくはくおき給へ給ひて
二百年あまた給ふ其時の翁も今も
白髮の翁もわがまありと
う程は妙なる秘とてかみおのり

名なきらにきき来りて 今ハ何れもつら
るる其のまを釣さしむ 翁あるり
勅使と慰ち申さしと 旨今 宴より
来りしと 殊より今夜ハ天燈籠焼
神前ノ東現の時長なれは ちとく
ましと終りてと 冬ノ雪もたら
かたに かく 雪の風の音老の

浪もよりくる 釣の翁と なるら 秋
白雲の形も 玉の麻と 中 毎さ
社壇よりと 給ひたり 女
此を以て 杖をきき 心 ちを 考
沈て 神をひき ぬる 折の 如
神々人の 影の 危て 威を ち 増て
是を 勅に 使あり とも あり

あり日初上カがニさニちニ社ニ壇ニの内ニよりニをニく
寔ニにニ妙ニなるニはニ声ニを出ニしニ靡ニをニあニりニつ
かニつニ紙ニ代ニ玉ニ垣ニ輝ニわニつニ歌ニ白ニ頭ニのニ舞ニれ
手ニすニかニつニ現ニたりニあニつニるニるニはニはニあニらニわニら
るニ歌ニ奇ニ妙ニあニらニはニもニ宜ニしニ衆ニのニ心ニをニ
もニ感ニ涙ニ油ニをニらニるニもニきニかニらニしニあニらニわニく
さニらニるニおニもニたニ業ニ樂ニのニ曲ニをニ奏ニしニはニらニるニ

勅使を慰ら申ニしニとニおニ里ニ神樂ニ催ニ馬ニ
樂ニさニらニくニらニるニ系ニ行ニのニ後ニにニ秘ニ曲ニ
とニつニつニつニ指ニ子ニをニらニうニてニ夜ニ遊ニれニ舞ニ
樂ニあニらニかニしニもニ面ニ白ニわニ女ニ舞ニ樂ニくニらニわニれニ
教ニのニあニらニひニかニつニ磯ニらニうニ浪ニのニ声ニがニ吹ニ風ニ
名ニ琴ニをニらニうニてニ心ニ耳ニをニらニうニてニあニらニわニらニるニ
天津ニをニらニうニてニ雲ニ井ニをニらニうニてニあニらニわニらニるニ

湖水の面鳴動まはる天燈籠の
牙現早雷うや早雷天地れあ燈影チカスまてく
神前チカスの備チカスうは燈の光山河草木
輝チカスまより日夜の勝チカスあまチカスきり多チカス
かきく夜もさ明かしのチカスあて
夜もさ明かしのチカスあて
明神は能くチカス明神は居る

あびくチカスあびくチカスあびくチカス
天女あまらるる天燈籠ハ龍神を
湖水のうらやうと波まてく雲さ
うらやうと天地ハ別まてく花さけり
明行もも白鬚の明りあもさ
しきの神代治まてく代りあもさ

經政

早傳相

是ハ小山仁和寺法室の住所に在り

大納言の僧初行廣之の相を但馬守

經政ハ初少老比より法室より出たり

ありて其のいふく法室より一程

君も不便と思はれし所より法室一谷

丁御堂よりして一谷の法室にあり

たゞ名をかくし其其の
^早又^ニ名をひきき^ニ有^ル無^クよ^クき
^上る子の^上國^上あり^上一^上常^上あり^上世^上と^上く
經^ニ政^ニを^ニく^ニし^ニの^ニ法^ニを^ニよ^ニり^ニき^ニて
そ^レの^レ及^レ之^レの^レ世^レを^レ其^レの^レか^レら^レハ^レ見
え^レぬ^レと^レも^レ生^レま^レす^レと^レも^レ滿^レつ^レき^レた^レが^レ我^レを
人^トと^スる^トは^スめ^トと^スる^トは^ス行^フの^トも^トき^トい

の^レ水^レは^レく^レも^レ其^レの^レま^レを^レあ^レら^レし^レ一^レ宮^レの^レ
く^レら^レく^レ幻^トの^トあ^トり^トた^トの^ト夢^トを^ト國^トあり^トし^トよ^ト
美^クなり^ク ^ワ半^ク ^レの^レを^レ包^レれ^レ經^レ政^レは^レ其^レり^レ
ほ^レよ^レと^レ思^レへ^レん^レさ^レら^レし^レの^レ清^レを^レあ^レつ^レく
言^ハふ^ハを^ハ程^ハも^ハく^ハし^ハく^ハも^ハわ^ハり^ハ一^ハ美^ハを^ハあ^ハめ^ハて
も^レ現^レあり^レた^レ法^レ事^レの^レ功^レ力^レ成^レ就^レ
て^レ亡^レ者^レを^レ言^ハふ^ハ言^ハふ^ハを^ハし^ハる^ハ事^ハ人^ハあり^ハ

かゝるの事歎かぬ 扱もつて室中
よして其名を詠ふ事わづらひ 偏
に其の所恩徳ある事申すも平向
さるる青山さるるに民を安んずる
いふ事さるる事さるる常八年
結ぶ事今をひらき心故事さるる似たり
扱音の是をいふ事さるるを扱音とさるる

あゝくー 舞 彼 鐘 鼓 しく 奏 する こと
の昔よりいふ事さるる 舞 舞 舞 舞 舞 舞
をさるるの事さるる 文 花 鳥 風 月 詩
歌 管 絃 を 奏 する こと 奏 秋 奏
まゝの事さるるの事さるるの事さるるの
心 奏 する こと 奏 奏 奏 奏 奏 奏
五 年 樂 奏 する こと 奏 奏 奏 奏 奏 奏

の窓邊をゆくはるかなるけしきに
 してはるかにあけのぼる朝の霞
 雲を揺りつゝ時を調ひもよみ
 群あそびていふよりなほあそび
 月と雲の国の松窓をうら
 ちてそとをさかきとらふ花
 面白をゆりかたきよ大鐘の響

急雨のしほりきつては
 かく私語のよきなほ
 かくては火の所を
 新玉の舟に舟に
 の鶴をよもよ思ひく
 心して皮地の内
 風管の秋素願は雲

松風

早倍茶

本

清磨也明石の浦待ひく月もろ

とていふよ 是ハ諸國一見の僧也

作まぬ美し西國をたひく程は此あり

思ひき西國よりう浪戸明石の月

まじなまちをちかおしひ潮急は程

是ハわがは老國は磨の海をわらふ

又果なる時、晴れ、風の静まり、
 雲が薄く、空が青く、
 草花の匂い、風に乗って、
 遠くまで、運ばれて、
 心の中にも、咲き、
 心の中にも、咲き、
 心の中にも、咲き、
 心の中にも、咲き、

又果なる時、晴れ、風の静まり、
 雲が薄く、空が青く、
 草花の匂い、風に乗って、
 遠くまで、運ばれて、
 心の中にも、咲き、
 心の中にも、咲き、
 心の中にも、咲き、
 心の中にも、咲き、

中ニカキまノ乃ニ露ニあツる日の日はは佳クきス
 なる日はは佳クきス
ト捨テ草ヲ燒スる日はは佳クきス
ト日ハ佳クきス
ト日ハ佳クきス
ト日ハ佳クきス
ト日ハ佳クきス
ト日ハ佳クきス

月ハ佳クきス
 風ハ佳クきス
 袖ハ佳クきス
 女ハ佳クきス
 女ハ佳クきス

其より〜を言ひ〜のあり
〜像ワキ〜也〜行慕
前夜を志し〜其心必^レ成^レん
〜におれし^レ利養を^レ後と^レ思はせん
終り人^レ辞^レる^レ時^レ一^レ暫^レ月^レ
の夜らげ^レる^レは^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし
捨人^レより^レく^レの^レ残^レ念^レを^レ内^レに^レ持^レつ

一^レ竹^レ若^レ垣^レ後^レに^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし
音^レ声^レ火^レふ^レあ^レし^レて^レは^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし
三^レ人^レ〜^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし
一^レ美^レり^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし
ま^レの^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし
心^レの^レ安^レん^レは^レし
宿^レの^レ心^レの^レ安^レん^レは^レし

其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて
其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて
其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて

其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて
其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて
其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて
其の事入るる事と
行年七十五の歳
松本に在りて

う・倭・く・り・て・お・執・心・の・ま・ん・ぬ・り・あ・る・こ
ニ・た・し・袖・と・ぬ・く・倭・^{ワキ}・ま・れ・く・そ
お・執・心・し・ま・ん・あ・の・源・を・る・今・ま・お・世・に
な・ま・い・入・の・つ・ま・ら・あ・り・又・解・落・し・た・り・心
懐・く・い・な・も・あ・ら・ぢ・あ・の・様・よ・こ・い・人・を
ま・名・と・し・る・名・ま・く・^{ナリ}・何・の・ゆゑ・お・世・に
^{ワキ}・中・の・し・ら・^ニ・ま・し・く・^ニ・お・ま・の・あ・ら・は・り

は・ら・く・し・る・ま・ん・ぬ・り・あ・る・こ
し・ら・く・し・る・ま・ん・ぬ・り・あ・る・こ
あ・ら・ぢ・あ・の・様・よ・こ・い・人・を
ま・名・と・し・る・名・ま・く・^{ナリ}・何・の・ゆゑ・お・世・に
^{ワキ}・中・の・し・ら・^ニ・ま・し・く・^ニ・お・ま・の・あ・ら・は・り
あ・ら・ぢ・あ・の・様・よ・こ・い・人・を
ま・名・と・し・る・名・ま・く・^{ナリ}・何・の・ゆゑ・お・世・に
^{ワキ}・中・の・し・ら・^ニ・ま・し・く・^ニ・お・ま・の・あ・ら・は・り

くいの清みほむ心ハ海戸浦
 若夜しを子海生し女も
 名もあやと松尾村の心
 月も別れは磨ハ海生ハ
 夕くく 鐘の音も
 こゝろ

ストク 鐘の音も
 去給のあとも
 中周をおる軸の心
 ああなる冠
 徳種の露も思ひ

あゝ心から思ふ事ありて
捨てもおぼれぬ程に
さうおぼれぬ程に
徳のさちを方海より
事そ悲しき三瀬川
上へおぼれぬ程に
行平の清

さうおぼれぬ程に
執心の
あゝ心から思ふ事ありて
捨てもおぼれぬ程に
さうおぼれぬ程に
徳のさちを方海より
事そ悲しき三瀬川
上へおぼれぬ程に
行平の清

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

かゝ^ハ妻^ハ統^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも
 とも^ハな^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて
 乃^ハ浮^ハ川^ハの^ハ浦^ハへ^ハま^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて
 一^ハ國^ハ路^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも
 夜^ハも^ハ明^ハく^ハ村^ハ雨^ハの^ハ國^ハ一^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも
 松^ハ茂^ハら^ハる^ハや^ハ物^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて

浦の町

ワキ傍河

是^ハハ^ハ矢^ハ瀬^ハの^ハ山^ハ軍^ハ上^ハ夏^ハと^ハ後^ハの^ハ僧^ハは^ハ
 宴^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも
 灰^ハ本^ハを^ハ持^ハつ^ハて^ハ米^ハを^ハ煮^ハき^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて

本^ハ宮^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも
 未^ハ女^ハ深^ハゆ^ハひ^ハろ^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて^ハも^ハな^ハり^ハし^ハて
 袖^ハ子^ハ也^ハれ^ハと^ハ一^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも^ハ又^ハの^ハ名^ハも

不任女まぐ侍まぐ扱まぐの御の山置り
貴たお僧の口入作程まぐ毎も本堂尻本
と扱まぐ美つひまぐ又美つひまぐ
らまぐ申す本堂しあ本と持まぐ
美つひまぐ ^平 毎日本堂尻本と扱まぐ
美つひまぐもる難つ作今ひ本
美つひまぐ ^平 美つひまぐ

あはれいふまぐの悉まぐたまぐ浄飯まぐ
超まぐ極お山まぐまぐまぐまぐ
波新まぐまぐ様まぐまぐまぐまぐ仙人
まぐまぐまぐまぐ況まぐれまぐ女まぐ摘
まぐまぐ招まぐ行まぐまぐ兼まぐ行まぐまぐ志
ね親職まぐまぐまぐまぐまぐまぐまぐ
まぐまぐまぐまぐまぐまぐまぐまぐ
まぐまぐまぐまぐまぐまぐまぐまぐ

目下 一車に似たるあり
一 腕き 落権 奇人の家本家
みる人丸の如き 柿山 漆の小粟
窓の梅 蘭の枇 花は名を桜麻
乃生の浦梨粒も有 櫛 一まて 傳ひ
大小柑子ま柑あさ 昔もなり 一まて
花楊枝一校く 本家れ 数ひ 函
カキ

おぼへ 花に 入る 一 伝は 人 一 名 一 名
華に 一 花 一 花 一 花 一 花 一 花
一 花 一 花 一 花 一 花 一 花
おぼへ 一 花 一 花 一 花 一 花 一 花
カキ
一 花 一 花 一 花 一 花 一 花
一 花 一 花 一 花 一 花 一 花
一 花 一 花 一 花 一 花 一 花

だんごのり或人市原野を通り
芒ひとまきつらふり声有て秋風北
吹上付てきあぢくぢくさのるる
世じまきつらふりまのり山町を渡り也
唯今の女性ハ物ともあはれ山町を
雲ふくちう宿あり市をくわす新
小町の跡をたふしむるは上光

市原野邊の寺の住持の人の考と傳
南無阿弥陀佛に受て出離生死於此菩提
拜するの僧の房に在る因を以て戒授け
經くお僧も悟りてさうかむ戒授
き経つ恨を申しさあゆり経くお僧
伝ふか傳傳はふちの程に若患と入

大いなる御座り候へば、
ひより秋の風も、
霧のさかすかに、
位乃少将の御座り候へば、
いさゝかおの事、
百夜通の御座り候へば、
秋のさかすかの御座り候へば、

寒と思ひ候へば、
車のおかたつ、
一なる、
さうして、
さうして、
さうして、
さうして、
さうして、
さうして、
さうして、

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

くらしきし 相雨の夜、目よるゝ鬼

鳥をがけ 鐘もたなれ 夜も明もい

指福あつて ちかちか ちかちか

ちかちか ちかちか ちかちか

なまぬ九十九夜あり 今も一夜より

さて待ひて 成ぬ意をいへ 遠く

風おろし 帽子 葦をい

花栞の 色かきぬ ちかちか

物と物とあつてはさきかきかきかき
紅の袴衣はねびきききききききき
西月の重ぬきききききききき
あんと世一念のちかちかちかちか
を減して小野の少将もさしたは
通ありききききききききききき

船辨慶

弓
今日がはらう猿衣のあかりききき
さうもゆきをうききききききき
武蔵坊辨慶きききききききき
鎌倉殿の清代官ききききききき
あつてはさきかきかきかきかき
のいよきききききききききき

志の澄言より清中たるをせしめ
ての節も秋君ハ親兄の禮をたし
しゆり先教をいひたるて受よ
得あたらよを信ひしらん為今日夜と
こり津國尼崎大抱のさくさく
比き又治教をいひ多つ了る教の義
經不仕のより一だにさる居り力なく

^{判官}判官都を城らららのすらせをくあ
ぬ其きたる西國乃か人さるまき夜
すくも雲舟の月出もさる都の
名跡一と勢平家追討の都出き引
くくたる十余人をこくせしむしと
かぬともあつよりさるや雲水はる
実あたらなるれ世中へ何れ

水^カくさ^カ浪^カの^カ神^カら^カも^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ
か^カた^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カた^カけ^カり^カ

波濤^カの^カそ^カの^カ聲^カは^カ人^カに^カ聞^カこ^カ
る^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カ
申^カ上^カり^カあ^カら^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カ
事^カは^カ人^カの^カ聲^カは^カ人^カに^カ聞^カこ^カ
都^カへ^カあ^カら^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カる^カ
事^カは^カ人^カの^カ聲^カは^カ人^カに^カ聞^カこ^カ

静に侍候して静に御宅より
静に御宅の内より静に
侍候するに使はれ武能く集りて
行かざり候はば御唯今何乃爲
老侍出せしむるに御是は後
みづ波濤おき候はばなほ静に
人口きかざるに同先く静に

老に侍候して静に御宅より
静に御宅の内より静に
侍候するに使はれ武能く集りて
行かざり候はば御唯今何乃爲
老侍出せしむるに御是は後
みづ波濤おき候はばなほ静に
人口きかざるに同先く静に

侍もあれはとては大事事まじりのく
まうたははとあり有り肝要まじく候
能くお察事まじり口は武藏殿のほそ
らにお思ひ程より自らまじり直に返
事よかまじりおまじり ワキ それのさし角
まじりたるは斯くは事まじりたか上
依静の清 判友 静に静に

思ひは清く人まじり行可は波濤を
清くは人まじり人口然りか
先く静の静より自然時を
く ミテ 静の静より静より
く ミテ 武藏殿を恨まじり事此面
目なまじりぬく面目 ワキ 静
く ミテ 静の静より静より

船海の門出れ和款上の事上とす上
其言は事したる船子たす是を上
し上其時静きあり時の
油を名敷す下渡りの船は風き海
つて波致乃傷のり日とる者ゆ
立上しありぬる上油上子上
恥上や上傳上く上同上由上ま上く上自上疎上を上伴上な上り

會上徳上山上の上居上く上種上れ上智上略上を上
め上終上る上事上と上し上く上自上疎上の上
本上意上を上達上し上て上も上自上疎上な上り上
二上世上と上り上て上も上死上を上受上け上る上
陶上朱上功上と上な上り上て上も上下上に上
て上政上を上ス上る上事上功上名上富上を上く上る上
功上成上名上を上き上く上事上限上く上

^早あゝ笑はた後風から吹くも何れ武庫
 山吹うへかりやと山吹も吹たうへ
 花は春にのみ地は何れ武庫の
 春はくちやと山吹も吹たうへ
 申候 ^早何事おくも 此はあまぬ
 あつうへ何れと ^早あつ暫船中あつ
 左様のおもひと何れと何れと

春はくちやと山吹も吹たうへ
 申候 ^早何事おくも 此はあまぬ
 あつうへ何れと ^早あつ暫船中あつ
 左様のおもひと何れと何れと
 春はくちやと山吹も吹たうへ
 申候 ^早何事おくも 此はあまぬ
 あつうへ何れと ^早あつ暫船中あつ
 左様のおもひと何れと何れと

了^ル神^神明^明佛^佛陀^陀の^ノ冥^冥威^威を^ハ背^背した^リ天命^命
を^ハ承^承け^ル平^平家^家の^ノ一^一統^統を^ハ守^守り^し所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
^早^速に^ハ下^下り^て相^相討^討つ^リて^ハ
天皇^天九^九代^代の^ノ後^後流^流平^平家^家の^ノ冥^冥威^威を^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
あ^らる^所も^ハ平^平家^家の^ノ冥^冥威^威を^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
波^波の^ノ聲^聲を^ハ聞^聞か^ずし^ても^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ

知^知感^感を^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
海^海に^ハ沈^沈め^りて^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
あ^らる^所も^ハ平^平家^家の^ノ冥^冥威^威を^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
潮^潮を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
ら^らる^所も^ハ平^平家^家の^ノ冥^冥威^威を^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
其^其時^時義^義経^経が^ハ承^承け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ
授^授け^ル所^所
を^ハ破^破つ^テの^ノ月^月御^御雲^雲が^ハ波^波の^ノ如^如く^シ

五

りたるに給へり奇慶也
うら物とてまき叶ふと
くことわくまて東方降三世南方
軍陀利夜又西方大威徳四方金剛
夜又明王中央大重不動明王のさ
くまけく新いのれ悪具次方下遠
さるの奇業あり力と命を地を

漕のまじりたるに
かみまじりたるに
いれまじりたるに
跡白波とて成り

255
88

著作權所有

明治四十年九月十五日印刷
明治四十年九月二十日發行

著作者

金春七



奈良市東城戸町三十八番地

發行所
印刷者

江島伊兵衛



東京市日本橋區通四丁目七番地

同市同町同番地

發行所

椀屋謡曲書肆

